

令和2年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで学び、協力し合う生徒の育成</li> <li>・規律を守り、責任を果たす生徒の育成</li> <li>・健康で思いやりのある生徒の育成</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「江戸川一を目指す二中」</li> <li>・所属感、自己肯定力、自己有用感を持たせ、二中の生徒であることにプライドを持つ。</li> <li>・授業力、生活指導力の向上、組織人の自覚、人権感覚、危機管理、服務規律の厳守。</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・行事、委員会活動、部活動などを通して、所属感、自己肯定力、自己有用感及び二中の生徒であることのプライドに確信が持てた。 ・いじめ・不登校対策、ボランティア活動の推進等の指導が功を奏し、より落ち着いた前向きに学習に取り組む環境を保っている。 <課題>・引き続き、家庭学習習慣の定着を徹底し、基礎学力の底上げを図り、学力を向上させることが課題である。 ・家庭や地域の持つ課題に外部機関との連携をさらに強めながら向き合っていく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント		
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	今年度は小中が連携した研修会、行事は行わない。	中堅教諭資質向上研修で各校2日間、計6日中学位の授業を実施。	B	B	研修会は実施できなかったが、新たに小学校への「出前説明会」を実施。	A	近隣小学校・地域との連携を常に考慮しながら進めている。	近隣小学校の授業参観等を更に推進	
	ボランティア活動の推進	ボランティア活動を奨励、充実感、達成感、自己肯定観の充足	今年度はボランティア活動は中止になる活動が多い。	密を作らず協力できるボランティア活動の参加を目指す。	B	B	感染防止のため今年度は校内ユニセフ募金のみ行った。	B	感染の心配がなくなりボランティア活動が再開できることを望む。	教員の負担が大きい点を改善したい。	
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICTアシスタントによる校内研修の実施	ICTを活用するための研修会を年2回実施する	B	B	年1回の研究授業を行った。ICTを活用し情報モラル研修に取り組んだ。	B	GIGA構想の準備を滞りなく進めていただきたい。	ICT支援員の有効活用	
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	7月下旬研修会を実施、個々の障害に応じたアプローチの仕方を学ぶ	フェイスシートを作成、7月中旬までに全教員が共通理解し対応する。	A	A	要支援の生徒の共通理解を図り役立てた。特別支援教育研修も行った。	A	特支教室は巡回で行うときいた。自校で受けられるのは良い。	教員の理解を深める研修の更なる充実	
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	放課後数学補習教室、土曜の受験対策講座を行う	・放課後数学補習教室 1人当たり24回・土曜の受験対策講座12回24時間	A	A	補習、受験対策講座とも予定通り実施できた。進路決定率が上がった。	A	補習の体制が充実している。	学力調査での数値目標達成に向けての工夫	
	学校図書館の整備・充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実・学校図書館を使った授業の充実	学校図書貸出電子化を推進 仮設校舎への引っ越しに伴う蔵書の整理	新着購入本を2学期に完了させる 蔵書の整理も随時行う。	B	B	仮設校舎図書館のため狭く、クラス全員での学習が不便である。蔵書整理を行い書架の整理は進んだ。学習の中で情報を収集・整理・分析する力はついてきている。	A	感染防止のため本の貸出禁止の期間が長く難しい点があったようだ。そのような中でも朝読書・調べ学習に積極的に取り組んでいると聞いている。	図書館の整備については司書の配置が必要。読書家では、他者と共に思考を深める活動をさらに取り入れる	
	読書科の更なる充実	様々な事象に関して、自分で問題を見つけ出し問題解決をする力の定着	図書カード作成 探究的な調べ学習の充実	年1回読書カード作成 総合の授業での調べ学習・発表							
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	補強運動等の実施 昼休みの校庭・体育館利用	運動能力テストは実施できないが授業で測定する種目で昨年度を下回らないことが目標	B	B	目標達成までは至らなかった。効果的な補強運動を更に模索中	B	狭い校庭で環境が悪い中でも工夫して取り組んでいることがわかる。	改築による校庭の縮小	
	オリバラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリバラコーナーの充実	パラリンピック教育の充実、国際理解教育の推進	保健体育、道徳等で各学年35時間以上取り組む	C	C	障がい者スポーツに関わる講師の講演はできなかった。	B	各教科でオリバラ教育を進めていることを聞き開催を願う。	来年度はパラリンピックアーチェリーを観戦予定	
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	英語力を図るため英語IBMの全学年実施	英語IBMのテストで半数以上の都平均以上が目標	B	B	目標達成までは至らなかった。ALTの授業は効果的に実施できた。	B	英検の合格率が上がっていると聞き先生方の頑張りを感している。	ALTの授業回数を増やすべき	
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめ防止総合対策への取組 魅力的なわかる授業の実践 SC,SSWとの連携 特別支援委員会での不登校生徒への対応確認	いじめ防止総合対策に基づいた年3回の研修実施 必要に応じたケース会議の開催 共通認識のもと、必要に応じた外部機関との連携	A	A	研修会の実施と共に「ふれあい月間」で調査したいじめ認知件数を個々に後追い調査しいじめの完全な解決まで導いている。	A	いじめは絶対許さないと強い信念のもと組織的に指導に当たられていることが分かった。	クラスの人数の増加により目が届きにくくなる。	
相談体制 健全育成の充実	健全育成の充実	「東京SNSルール」の推進による児童・生徒の生活習慣や情報モラル意識の向上	基本的な生活習慣の確立、情報モラル意識の向上	特にスマートフォンの使用モラルについて注意喚起を促す。	A	A	「東京SNSルール」を踏まえ学校独自のルール作成に取り組んだ。	A	家庭と連携をとりながら進めており感心した。保護者の監督が大切。	更に進めるが保護者の意識改善が必要。	
	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	いじめ・学期1度の調査 不登校対策・細やかな対応	いじめ・ゼロ 不登校・ゼロを目指す	B	B	いじめは23件上がりすべて解決した。不登校件数は35件で6件減った。	A	取組は評価する。原因が家庭に起因する場合は改善が難しい。	不登校の出現率をできるだけ抑える。	
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	全教員が教材研究や指導観を改善する。	週1回、生徒の個に応じた支援方法の検討	A	A	情報交換が活かされた。特別支援専門委員も参加し支援体制が進んだ。	A	個々の生徒への対応が年々充実してきたと聞いている。	更に共通理解を深める。	
	各種支援員の活用推進	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、登校支援員との個別面談	SC,SSW,SSとの個別面談	生徒の変容を確認、分析する。	A	A	SC1名の支援が新たに加わり相談体制が強化された。	A	相談しやすい体制が整っている。SC2名を有効活用してほしい。	SCの複数配置継続を希望。	